

HIS300GA

言語文化演習－アジアから見た日本－

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアの人々は日本にどのようなイメージを持っているのか。文献や映像資料を通じて、「アジアから見た日本」のイメージが形成された歴史的背景について学ぶ。3年次にはドキュメンタリー映像作品の制作を通じてメディア・リテラシーと情報発信の力を身につけ、4年次には学会での研究発表を通じて批判的思考と知的生産の力を身につける。

【到達目標】

アジアの人々の対日イメージがどのように作られてきたのかを歴史的に学ぶことにより、自己と他者の双方の視点から問題を考える力（＝共感力 empathy）を身につけ、複雑化するアジアの諸問題に対して適切な判断と行動がとれるようにする。

【授業の進め方と方法】

春学期には『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』を課題図書に、プレゼンテーションとディスカッションによって学習を進めていく。

夏合宿では日本とアジアとの交流に関連した史跡を見学するとともに、ビデオ取材の基礎を学ぶ。

秋学期には『中国史のなかの日本像』の輪読発表のほか、ドキュメンタリー映像作品を制作する。昨年度は日本人として裁かれながら、戦後は日本人と同等の補償を受けることができなかった旧植民地出身の元BC級戦犯に取材したドキュメンタリー映像作品を制作した。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに～『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』について	課題図書の編纂の目的と出版までの経緯を考える
第2回	先史時代の文化と交流	・先史時代の文化と交流
第3回	三国・加耶の政治情勢と倭の交流	・三国・加耶の対立と倭 ・人々の移動と文化交流
第4回	隋・唐の登場と東北アジア	・百済・高句麗の滅亡と日本・新羅 ・新羅・渤海と日本の交流
第5回	10～12世紀の東北アジア国際秩序と日本・高麗	・東北アジア世界の再構成 ・10～12世紀の日本・高麗の関係
第6回	モンゴル帝国の成立と日本・高麗	・モンゴルの侵略と高麗・日本 ・14世紀後半の東北アジア情勢と倭寇
第7回	15・16世紀の中華秩序と日本・朝鮮関係	・明中心の国際秩序と日本・朝鮮 ・日本と朝鮮の交流
第8回	16世紀末の日本の朝鮮侵略とその影響	・戦争の経過と朝鮮の対応 ・戦争の影響
第9回	通信使外交の展開	・日本と朝鮮の国交回復過程 ・通信使外交と日朝貿易 ・通信使外交の変質と崩壊
第10回	西洋の衝撃と東アジアの対応	・開港と不平等条約の締結 ・日朝関係の展開と摩擦 ・日清戦争と大韓帝国の成立 ・日露戦争と統監政治 ・抗日闘争と大韓帝国の主権喪失

- 第11回 日本帝国主義と朝鮮人の民族独立運動
 - ・朝鮮総督府の武断政治
 - ・3・1独立運動と文化統治
 - ・大韓民国臨時政府と様々な独立運動
 - ・日本人の朝鮮認識と朝鮮人の日本認識
 - ・朝鮮に生きた日本人と日本に生きた朝鮮人
 - ・日本の満州侵略と朝鮮社会の動向
 - ・戦時体制の展開と独立闘争
- 第12回 敗戦・解放から日韓国交正常化まで
 - ・日本の敗戦と朝鮮半島の解放
 - ・朝鮮戦争と日本
 - ・日韓条約の締結
 - ・日本の朝鮮・韓国人（日韓条約締結まで）
- 第13回 交流拡大と新しい日韓関係の発展
 - ・交流の拡大とその明暗
 - ・日本の朝鮮・韓国人（日韓条約締結後）
 - ・日韓関係の今とこれから
- 第14回 まとめ
 - ・春学期の学習を振り返り、朝鮮半島の人々の対日イメージがどのような歴史的背景をもとに形成されたのかを考える

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	課題図書『中国史のなかの日本像』について	課題図書と著者の紹介
第16回	日本像の視座	・先行研究について ・多重映しの日本像 ・未来志向の日本像
第17回	神仙の郷	・「倭」の地理像 ・『後漢書』の倭国像 ・東夷観の成立
第18回	宝物の島	・倭王の貢物 ・復元された倭錦 ・黄金と宝石
第19回	器用な民～虚像から実像へ	・韓志和伝説 ・海をわたる仏像 ・精巧な工芸品 ・明代文人の日本趣味
第20回	礼儀の邦～モノからヒトへ	・華夷同祖の意識 ・上古の遺風 ・遣唐使の風貌
第21回	学会準備（一）	国際文化情報学会での発表に備え、グループワークを行う
第22回	学会準備（二）	国際文化情報学会での発表に備え、予行演習を行う
第23回	好学の士～華夷の壁をこえて	・風月は天を同じうす ・文はその人の如し
第24回	白骨の山～日本像の豹変	・日本像の断絶 ・孤遠の島夷 ・元代の倭寇像
第25回	海彼の寇～海賊から妖怪へ	・不征の国 ・仮面と本性 ・妖怪への変化
第26回	西学の師～近代化の日本	・開国前夜 ・維新の国へ ・維新変法の手本
第27回	幻想の破滅	・義和団の鎮圧 ・孫文の日本像 ・抗日戦争 ・国家神道
第28回	まとめ	秋学期の学習を振り返り、中国の人々の対日イメージがどのような歴史的背景をもとに形成されたのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は、課題図書の内容を論理的かつ批判的に発表できるように準備することで、リサーチとプレゼンテーションの力を高める。

管理 ID: 1804993
授業コード: C1111

・発表者以外は、発表者の不足・誤謬を補足・修正できるよう準備することで、論理的かつ批判的に意見や質問を述べる力を高める。

【テキスト（教科書）】

【春学期課題図書】

・歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』（明石書店、2007年）

【秋学期課題図書】

・王勇著『中国史のなかの日本像』（農文協、2000年）

【参考書】

・木宮泰彦著『日華文化交流史』（富山房、1955年）

・王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディターズスクール出版部、2000年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回以下の項目について5段階の自己評価をしてもらい、その合計点で評価する。

- ①遅刻や早退、私語などをすることなく、演習のマナーを守ったか（20%）
- ②輪読資料を事前に精読し、発表者の不足・誤謬を補足・修正ができるよう準備したか（20%）
- ③他のゼミ生の発表をしっかりと聞き、積極的に意見や質問を行ったか（20%）
- ④ディスカッションで積極的に議論に参加したか（20%）
- ⑤ゼミ終了後、教室や機材などの後始末をきちんと行ったか（20%）

【学生の意見等からの気づき】

輪読やグループ・ディスカッション、映像制作、論文作成など、演習の活動の目的と意義を確認するため、議論を行い、共通の認識を持つようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

演習の活動は **fixi**（eポートフォリオ）を活用して行う。**URL** は、**fixi** の中の「言語文化演習」

<http://fic.xsrv.jp/elgg>

授業の中では次のような情報機器を使用する。

(1) プレゼンテーション

パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける

〔使用機材〕PC、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど

(2) ディスカッション

マイクを使ってはっきりと意見を述べ、また他者の発言にしっかりと耳を傾けるというディスカッションの基本的なルールを身につける

〔使用機材〕マイク、教室内の拡声装置

(3) 現地取材

取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕ビデオカメラ、三脚、マイク、**fixi**（インタビューの起こしと翻訳などの共同作業を行う）

(4) 映像制作

文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕パソコン、**fixi**（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど